

2020年7月2日

2020年11月期 第2四半期

決算説明会資料

見えないけれど、あなたのそばに



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

目次

◆ 2020年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2020年11月期 業績予測

◆ 中期経営計画

◆ 新型コロナウイルスの影響について

◆ 2020年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2020年11月期 業績予測

◆ 中期経営計画

◆ 新型コロナウイルスの影響について

2020年11月期 第2四半期 決算概要

外部状況

◆新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、移動の自粛や工場の停止など、経済活動の停滞が顕著となりました。一方、テレワークの浸透や5G世代への移行の進展により、電子材料関連産業においては底堅く推移しました。

売上高

◆化成品・機能化学品は販売が減少しましたが、電子材料関連の販売が好調であったことにより、売上高は前期比1.1%増の143億4千2百万円となりました。

営業利益

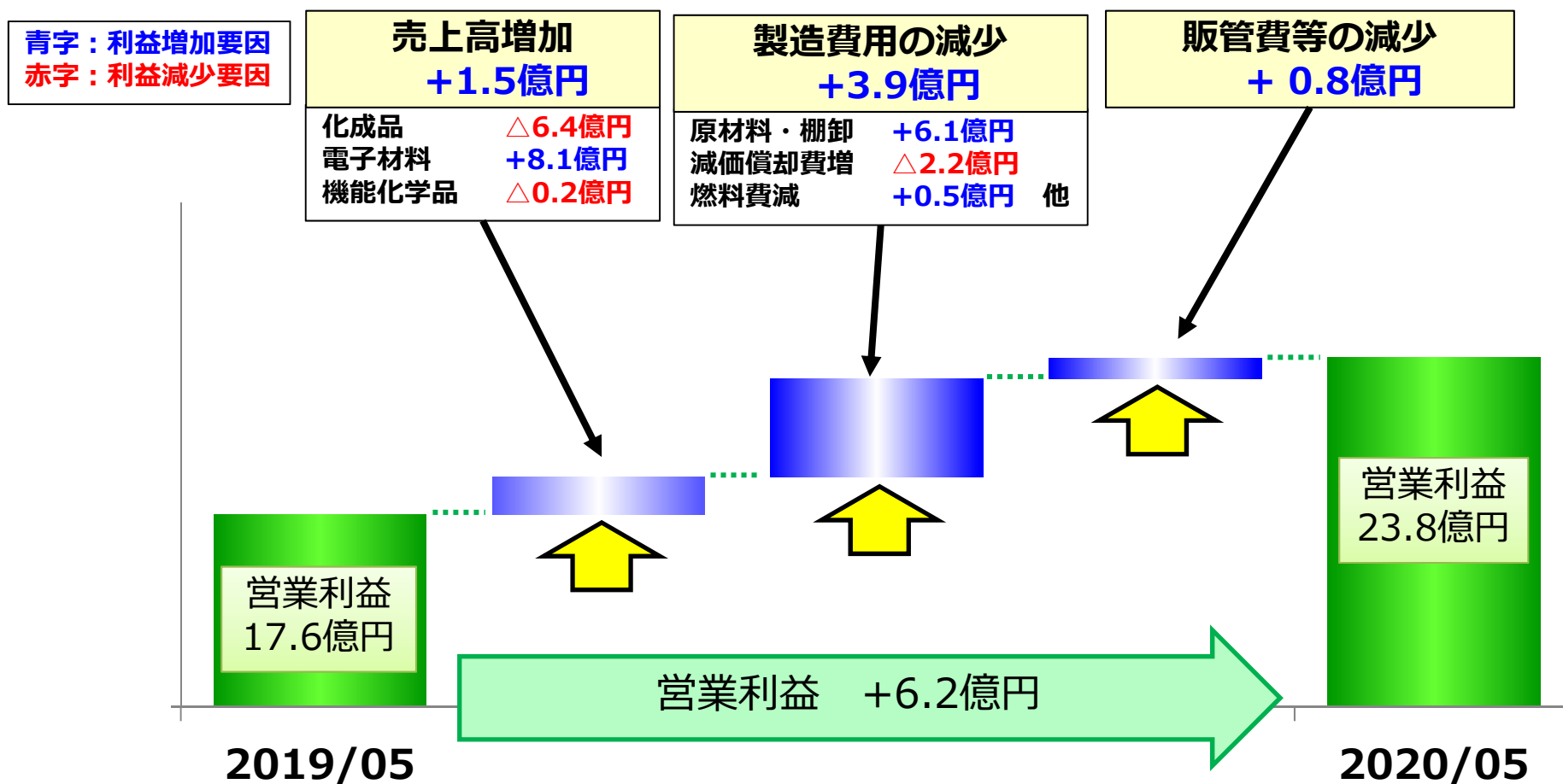
◆電子材料関連が好調であったこと及び、原油安などにより原燃料の価格が下がったことにより、営業利益は前期比35.2%増の23億8千4百万円となりました。

(百万円)	2019/05 実績	2020/05 当初予想	2020/05 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	14,192	14,561	14,342	+150	101.1%
営業利益	1,764	1,882	2,384	+620	135.2%
経常利益	1,812	1,973	2,457	+645	135.6%
純利益*	1,334	1,341	1,692	+358	126.8%
国内ナフサ (¥/KL)	43,300	41,000	34,400	—	—
為替 (¥/\$)	111	107	109	—	—

*親会社株主に帰属する四半期純利益

業績増減要因（対前年同期比）

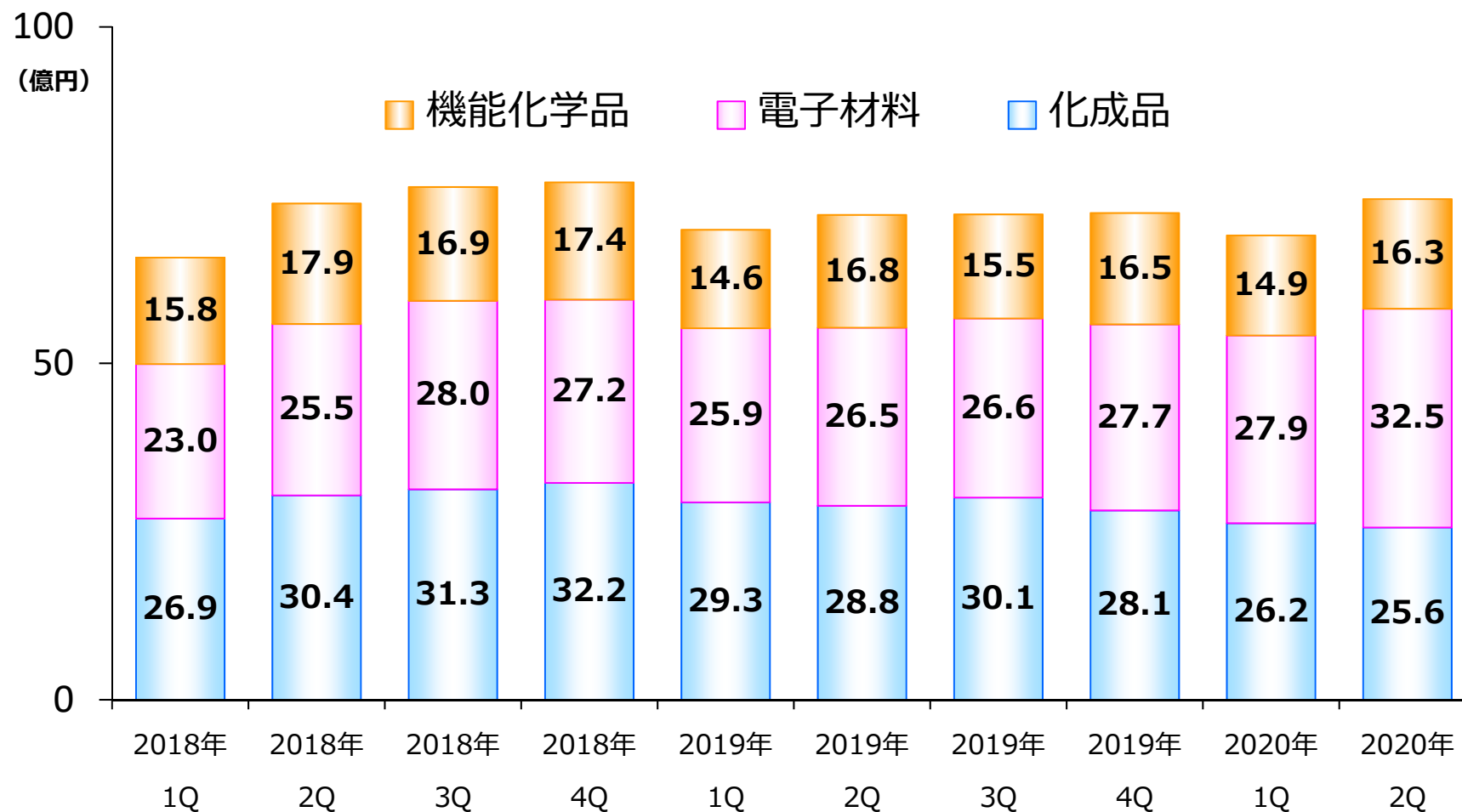
◆ 電子材料は好調でしたが、化成品の販売が減少し、売上高は微増となりましたが、製造費用の減少などにより、営業利益は前年の上期より6.2億円増加しました。



売上推移（四半期）

◆セグメント別売上高

2020年に入り新型コロナウイルスの感染拡大の影響などにより、化成品の販売は減少傾向にあります。機能化学品は安定しており、電子材料関連は表示材料、半導体材料ともに好調で売上高が増加しました。



損益計算書

◆営業外損益

営業外損益においては、為替差損が約17百万円減少しました。

◆特別損益

特別損失においては、化成品事業の新規設備投資に伴う旧設備の除去のため、固定資産除却損が32百万円増加しました。

	(百万円)		
	2019/05	2020/05	増減額
営業外収益	95	110	+15
営業外費用	46	37	△9
特別利益	89	0	△89
特別損失	18	51	+33

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

為替差損 △17百万円 他

固定資産除却損 +32百万円 他

貸借対照表

(百万円)

	2019/11	2020/05	増減額	
資産				
流動資産	22,960	25,089	+2,128	⇒
有形固定資産	14,900	14,931	+31	
無形固定資産	78	69	△9	
投資その他の資産	5,907	5,580	△327	⇒
負債				
流動負債	8,782	9,199	+416	⇒
固定負債	2,518	2,918	+399	
純資産合計	32,546	33,553	+1,006	
総資産	43,848	45,670	+1,822	

現金及び預金 +1,546百万円
(設備投資のため長期借入：12億円)

製品・仕掛品 +478百万円

投資有価証券 △324百万円
(有価証券時価評価減少)

* 設備投資のための借入金等により
負債の増加 +816百万円

コロナ対応としての 今後の財務指標

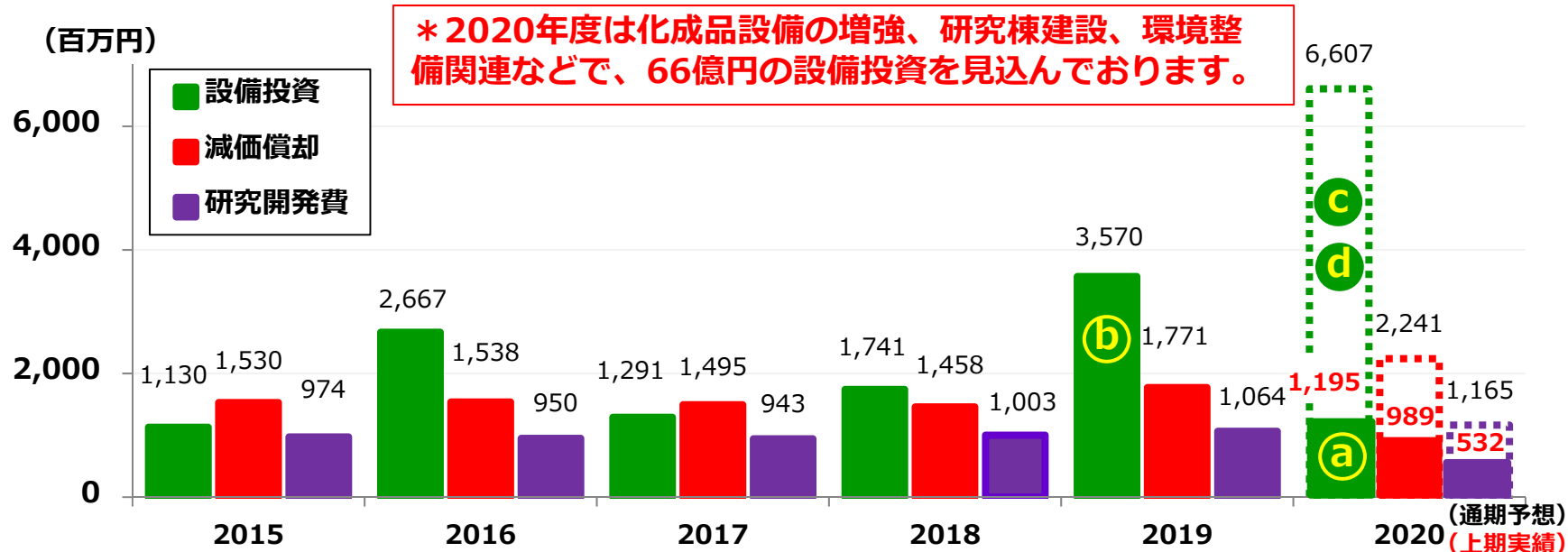
	2020/05時点	コロナ後の目安
自己資本比率	72.7%	—
手元流動性比率	3.8カ月	3.0~4.0カ月
DEレシオ	0.10	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.17	0以下 (実質無借金)
インタレスト・カバレッジ・レシオ	727倍	200~400倍

キャッシュフロー

(百万円)

	2019/05	2020/05	
営業活動によるCF	1,659	3,231	⇒ 税金等調整前四半期純利益 2,406百万円 減価償却費 989百万円
投資活動によるCF	△1,450	△1,616	⇒ 有形固定資産の取得による支出 △1,901百万円 (化成品製造設備新設等)
財務活動によるCF	242	247	⇒ 長期借入れによる収入 1,200百万円 長期借入金の返済による支出 △452百万円 配当金の支払い額 △487百万円
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△28	△25	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	423	1,836	
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,600	8,179	

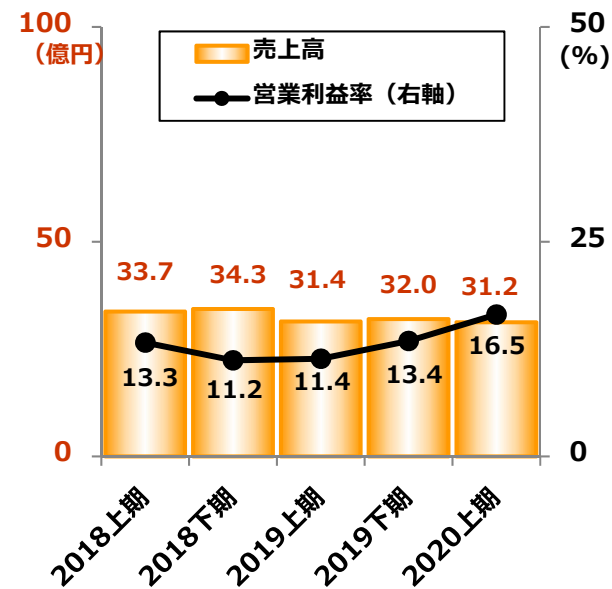
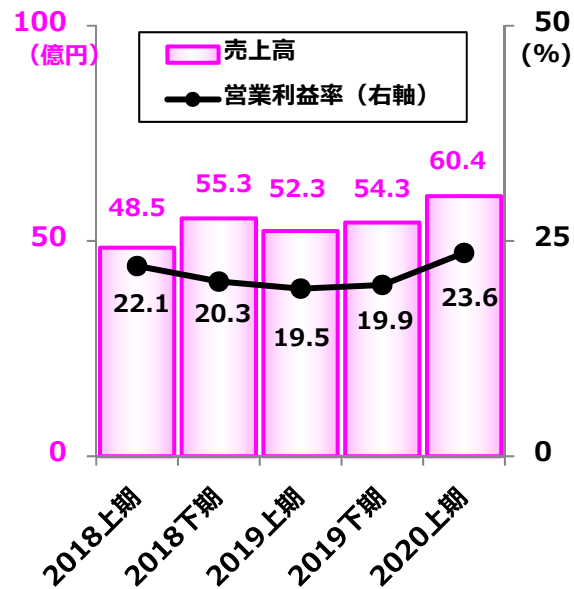
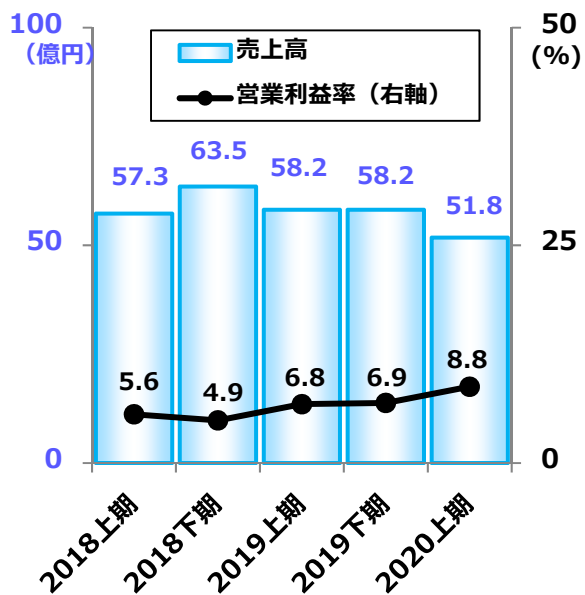
設備投資・減価償却・研究開発費の推移



	2019年	2020年	2021年	生産能力など
化成品製造設備増強	工事	a 運用		UV-IJ用モノマー等 (供給能力 +1,000 t / y)
電子材料製造設備増強	工事	b 運用		半導体用モノマー設備 新設 (供給能力≒50%増) 半導体関連材料設備 増強 (供給能力≒20%増)
	計画	工事	c 運用	
新研究棟建設	計画	工事	d 運用	新規事業の創出拠点

セグメント実績

化成品	電子材料	機能化学品
自動車塗料、海外向けモノマー販売が低調で 減収 。原材料費の減少と不採算製品の統廃合により 増益 。	PSは堅調、絶縁膜やOLED関連材料が販売増。ArF用モノマーも好調で 増収 。販売増に伴い 増益 。	化粧品原料は販売増、機能材料は販売減でトータル 減収 。電子材料用溶剤や、利益率の高い製品比率の増加により 増益 。
売上高 51億7千6百万円 (前年比 Δ 11.0%)	売上高 60億4千1百万円 (前年比 +15.4%)	売上高 31億2千4百万円 (前年比 Δ 0.5%)
セグメント利益 4億5千4百万円 (前年比 +15.2%)	セグメント利益 14億2千7百万円 (前年比 +40.0%)	セグメント利益 5億1千6百万円 (前年比 +44.4%)



目次

◆ 2020年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2020年11月期 業績予測

◆ 中期経営計画

◆ 新型コロナウイルスの影響について

2020年11月期 業績予想

◆通期業績予想

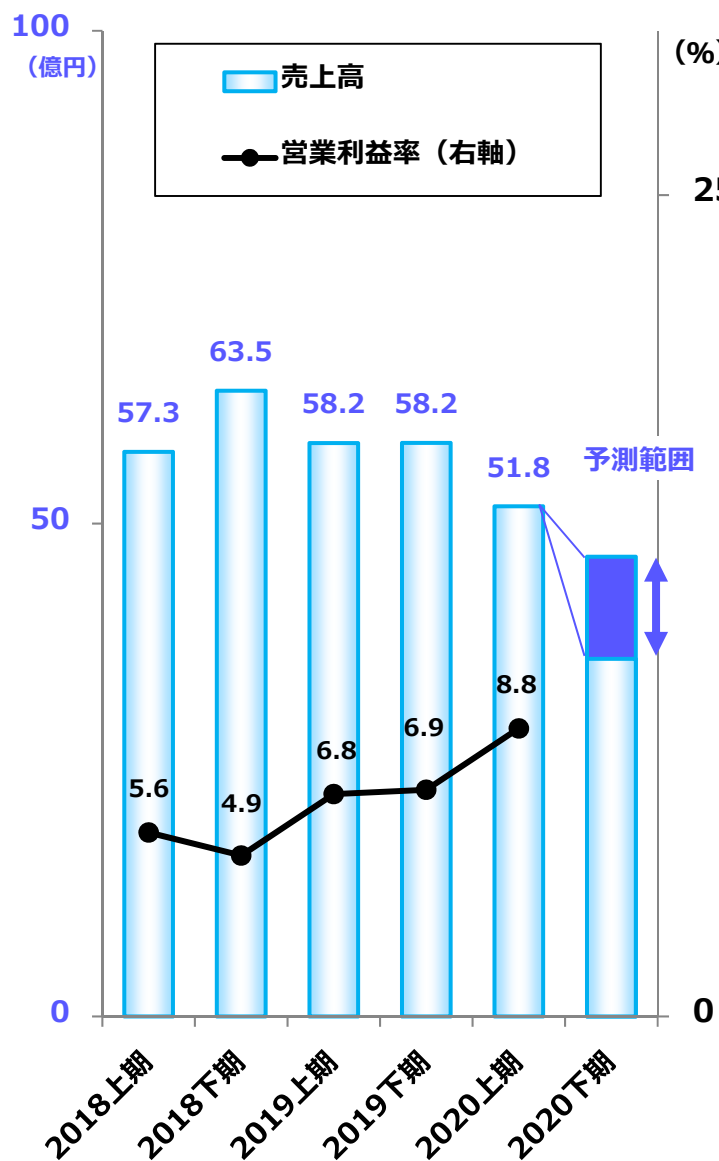
新型コロナウイルスの感染拡大による影響につきましては、いまだ不透明であるため、通期の業績予想は据え置きました。

業績につきましては、必要と判断したタイミングで情報を発信いたします。

(百万円)	2019/11 (実績)	2020/11 (当初予想)	前年増減	前年比	2020/05 (上期実績)	半期 進捗率
売上高	28,638	29,643	+1,005	103.5%	14,342	48%
営業利益	3,663	3,700	+37	101.0%	2,384	64%
経常利益	3,833	3,912	+79	102.1%	2,457	63%
当期純利益*	3,035	2,660	△375	87.6%	1,692	64%
売上高営業利益率	12.8%	12.5%	—	—	16.6%	—
ROE	9.7%	8.0%以上	—	—	—	—
一株当たり純利益	137.05円	120.11円	—	—	76.40	—

*親会社株主に帰属する当期純利益

業績予測 化成製品事業



業績予測

上期実績 $\triangle 11\%$ (対2019年下期)
下期予測 $\triangle 10\% \sim \triangle 30\%$ (対2020年上期)

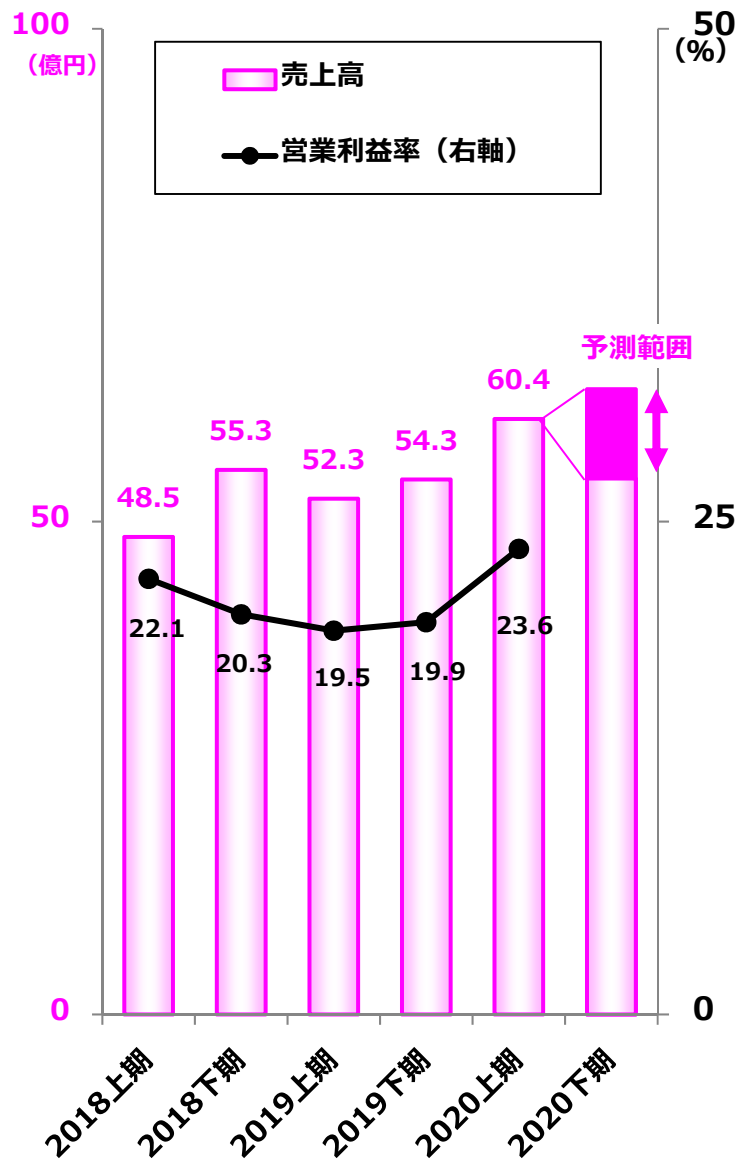
◆外部環境

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で、自動車大手は世界各地の工場の操業を停止。
- ・2020年の世界の自動車販売台数予測は前年比12%減。(2020年3月 HISマークイットより)

◆当社の状況

- ・2020年上期においては塗料関連を中心に販売減。下期も影響受ける可能性あり。
- ・今春より、高純度品の製造設備（能力：約1,000 t/y）が稼働開始。業績の下支えに期待。

業績予測 電子材料事業



業績予測

上期実績 +11% (対2019年下期)
下期予測 +5%~△10% (対2020年上期)

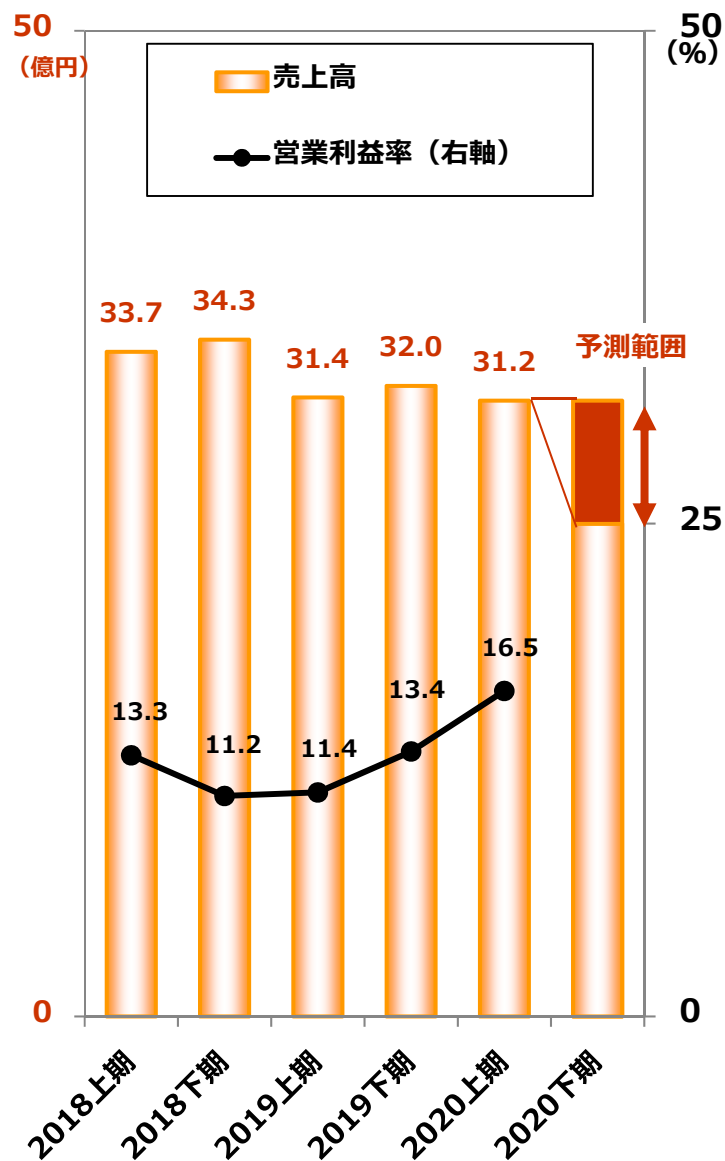
◆外部環境

- ・2019年の世界半導体市場は、メモリー分野での苦戦が影響し、前年比12%減。(WSTS世界市場統計より)
- ・2020年は反転が予想されていたが、新型コロナウイルスの影響によりマイナス成長に修正する調査会社が続出。
- ・最先端のEUV露光はアジアを中心に実用化が進展している。
- ・FPDは中国勢の台頭により価格が急落。世界市場は、新型コロナウイルスの影響により前年比6%減。(2020年4月 DSCC試算)

◆当社の状況

- ・ArF露光用レジスト原料は引き続き好調。
- ・設備増強により、顧客ニーズへの対応力を高めている。
- ・ArF/EUVの状況：販売はArFが主体。EUVも徐々に増加の兆し。
- ・FPD関連材料はコロナ禍においても台湾向けは好調であったが、下期にかけて中国勢が回復すると再び厳しい展開となる見込み。

業績予測 機能化学品事業



業績予測

上期実績 $\Delta 2\%$ (対2019年下期)
下期予測 $\pm 0\% \sim \Delta 20\%$ (対2020年上期)

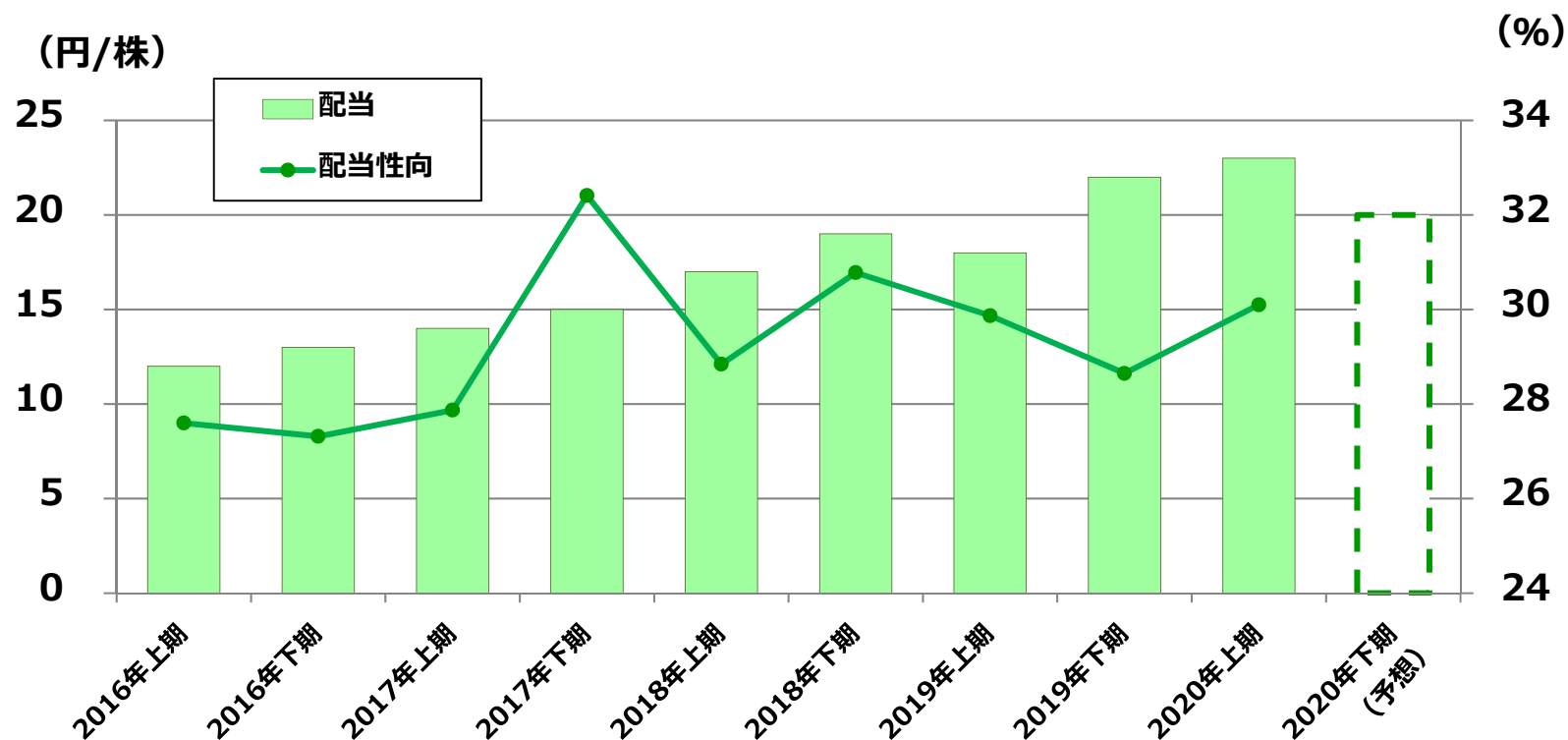
◆外部環境

- ・コロナ禍で訪日客は大幅減（3月 93%減、4月 99%減）となり、化粧品市場においては $\approx 4,000$ 億円の需要が蒸発。
- ・中国の電子商取引（EC）消費は、コロナ禍でも底堅く、スキンケア等の販売は好調に推移している。

◆当社の状況

- ・スキンケア用シートマスクに好適な「保湿、パラベンフリー」の機能を有する化粧品原料を中国などへ拡販。
- ・マスクの日常的な着用で、メガネの曇り止めに注目が集まる。当社の超親水性材料にも引き合いが多く、サンプルワークを進める。
- ・電子材料用溶剤は引き続き堅調

半期データ（配当・配当性向）



	2016年 上期	2016年 下期	2017年 上期	2017年 下期	2018年 上期	2018年 下期	2019年 上期	2019年 下期	2020年 上期	2020年 下期予想
配当 (円/株)	12	13	14	15	17	19	18	22	23	20
配当性向 (%)	27.6	27.3	27.9	32.4	28.8	30.8	29.9	28.6	30.1	30% 目標

目次

◆ 2020年11月期 第2四半期 決算概要

◆ 2020年11月期 業績予測

◆ 中期経営計画

◆ 新型コロナウイルスの影響について

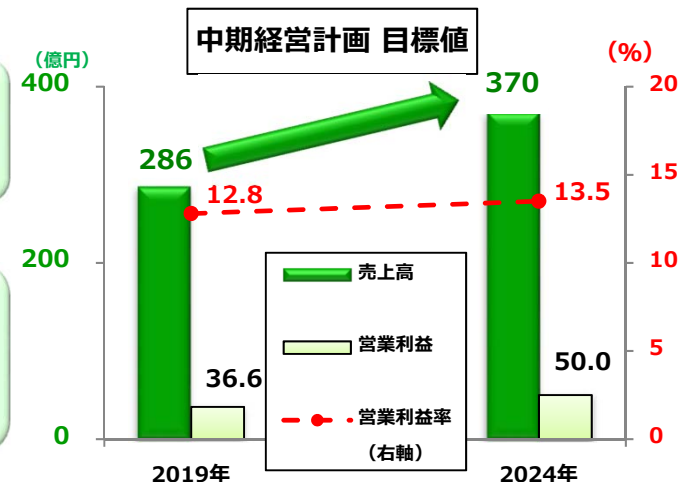
中期経営計画

経営ビジョン

特殊アクリル酸エステルへのリーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

基本戦略

- ・ 特殊アクリルをベースに化学材料を展開し、収益を確保する。
- ・ 川下化戦略により新事業領域を確立する。
- ・ 海外市場への拡販強化、グローバル認知度の向上を目指す。



事業	状況
化成品	製品の統廃合：特殊アクリル酸エステル（汎用品）の統廃合を実施。 新製品の投入：UVインクジェット用モノマーを展開。新規設備が今春より稼働。
電子材料	ArFレジスト用モノマーのシェア拡大：昨年新設した設備が稼働し安定生産中。販売体制を強化。 次世代EUVレジスト用モノマー：試作品の採用増を目指す。 半導体周辺材料：設備増強を進め供給体制を整える。
機能化学品	海外拡販：スキンケア用原料の化粧品原料を中国をはじめとする海外へ拡販。 機能材料の展開：新規塗料用材料、超親水性コーティング材、先端医療材料など顧客と共同研究。
新規事業	新事業領域の確立：伸縮性導電材料・調光材料・有機圧電材料などで、他社や大学との共同開発を実施。 拠点整備：大阪事業所に新研究棟を建設中。

目次

- ◆ 2020年11月期 第2四半期 決算概要
- ◆ 2020年11月期 業績予測
- ◆ 中期経営計画
- ◆ **新型コロナウイルスの影響について**

新型コロナウイルスの影響について

当社グループにおける対応

- ・ 1/23 全社に注意喚起し、予防対策実施を周知
- ・ 2/19 「グループ方針」を策定（出張自粛、在宅勤務導入他）
- ・ 4/14 対策本部を設置しBCPを発動し対策を更に強化
- ・ 5/22 新型コロナウイルス感染症予防チームを発足

感染防止の取組み

- ・ テレワークの推進、WEB会議の活用、出張の自粛
- ・ 出勤前の体温チェック、食堂の時差利用 etc.

当社事業への影響について

- ・ 自動車関連産業の落ち込みによる塗料原料関係の販売低迷
- ・ 電子材料では目立った影響なし
- ・ 中国での展示会延期による化粧品原料の拡販活動の遅れ

今後の予定

- ・ 従業員食堂の感染防止対策や、IT関連整備等に1億円を計上し、事業の安定的な継続を図ってまいります

見えないけれど、あなたのそばに



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

<注意事項>

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。決算説明会での質疑応答の要旨は、当社ホームページにて公開いたします。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)